

自然排便に向けて根拠のある介護

実践による排便状況の改善

自然排便

根拠のあるケア

多職種協働

キーワードについては
必ず3つ記入の事！！

特別養護老人ホーム 女満別ドリーム苑

発表者
(研究者)

介護係長 南 出 彰

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人 女満別福祉会	経営主体	社会福祉法人 女満別福祉会
開設年月日	平成6月4月1日	所在市町村	大空町
市町村人口	7,932 人	65歳以上人口 (高齢化率)	2,372 人 (高齢化率 29.9 %)
利用者定員数	60 人	利用者平均年齢	84.7 歳
職員数	48 人	職員数内訳	介護職 35 名 看護職 5 名
併設施設・事業	短期入所生活介護施設(10床)、通所介護事業、訪問介護事業、居宅介護支援事業他		
施設のサービスの概要	女満別ドリーム苑は、社会福祉法人女満別福祉会が運営する定員60名の特別養護老人ホームです。平成6年4月の開設以来、個人の尊厳の保持と地域連携の思想を基本理念とし、公正・公平かつ健全で活力ある法人運営に努めております。平成24年度より全国老人福祉施設協議会主催の介護力向上講習会へ参加し、個人の尊厳を保持する手段として、まずは「おむつゼロ」に向け取り組んでいます。		

発表の概要

①取り組んだ課題

これまで、排泄ケアで下剤の常用をしているご利用者が大部分を占めていた。排便が3～4日無い時に一律で下剤を頓用。そのことで、排便が泥状から水様便となり一日何度も排便がある状況が続くご利用者もおられ、排便のコントロールが難しい状況が見られていた。ご利用者の尊厳を守る為に、その人らしい排泄を目指して1年間を通じて自然排便に向けて取り組んだ。

②具体的な取り組み

自然排便について、根拠ある知識の導入から自然排便へ繋がる為の介護を実践した。

1. 食事・食物繊維

常食を基本にした食事の提供と、日本人の一般成人の食物繊維量を参考に寒天ゼリーと粉末食物繊維の導入

2. 運動

歩行を中心に活動量の増加

3. 乳酸菌・ビフィズス菌

腸内環境を整える為に個人個人に応じた食品の導入

4. 水について

一日1500mlを目標に水分計画を立案し実践

5. 下剤の中止

上記1～4の実践状況を踏まえて下剤の中止と減量を検討し実践

③活動の成果と評価

- 1 下剤の代用品導入から下剤使用量の減少
- 2 排便形状の変化から定時トイレ排便の増加
- 3 活動量の増加
- 4 平均水分量の増加

④今後の課題

自然排便に繋がる為の介護の実践から、知識は身につけてきたがいまだ全ご利用者には至っていないので、今後も取り組みを継続して行く。

- 1 全ご利用者がトイレでの排便を出来るようにする
- 2 下剤の減量から下剤に頼らないケアの確立
- 3 活動量が不足しているご利用者への活動の提供
- 4 根拠となる知識の共有を図るため職員教育の継続

⑤参考資料など